宮城県中学校長会

会　報

平成30年度 宮城県中学校長会 第69回総会開催される

総　会　概　略

５月30日，新会員32名（新任25名）を含め総勢134名が一堂に会し，第69回宮城県中学校長会総会・研修会がホテル白萩を会場として開催されました。志小田美弘会長の挨拶に続き，宮城県教育委員会 教育長 髙橋　仁 様からご祝辞を頂戴しました（教育次長松本文弘様代読）。

今回退職された32名を代表して，前会長である桂島　晃様へ感謝状と記念品が贈呈され，代表挨拶として，昨年，全日本中学校長会研究協議会東京大会で皇太子・同妃両殿下から東日本大震災被災３県へのお励ましを頂戴したことを振り返られ，復興に向けた人材育成，「人を遺す」ことを使命と受け止め，「校長一人一人が一隅を照らし，宮城の教育をより良いものに。」と話されました。

新会員紹介，全日中校長会員証の贈呈後，北上中学校菊地康司校長が「全力で学校課題の解決に取り組みます。」と決意を表明されました。

続いて，前年度と今年度の事業及び会計，宣言文について承認され，青山博之副会長が宣言・決議文を力強く読み上げました。永山　晋副会長の挨拶で午前の部は終了し，午後は，研修会として，教育庁各課・室から教育行政について説明，質疑が行われた後，鈴木一史副会長の閉会の挨拶で閉会となりました。

あ　い　さ　つ

宮城県中学校長会
会　長
志小田　美　弘

４月に開催された理事会において，今年度の会長に選出された石巻市立石巻中学校の志小田美弘でございます。改めて，どうぞよろしくお願いいたします。

今年の春は一足飛びにやってきたようで，桜の開花と合わせたかのような新年度のスタートから２か月が経過しています。今，年度当初の繁忙期がすこしだけ落ち着きを見せ始め，各学校とも巡航速度での日常に移りつつあるというところでしょうか。それでも各地区とも中学校総合体育大会の開催を間近に控えて，忙しさの中にも活気のある毎日が続いているのだろうと思います。

さて，本日は，公務ご多用の中，宮城県教育委員会　教育次長　松本文弘　様をはじめ，本庁各課室のご来賓の皆様，関係団体の方々，そして歴代の校長会会長の皆様のご臨席を賜り，平成30年度第69回宮城県中学校長会総会を盛大に開催できますことに会員一同，心から感謝を申し上げますとともに，このように今年度の中学校長会がスタートできますことを大きな喜びとするところであります。

この３月をもちましてご勇退されました32名の校長先生方におかれましては，長きにわたって宮城県の教育振興に大変なご尽力をいただきました。これまでの本会へのご理解とご支援，ご協力

に対しまして心からの感謝を申し上げます。今後益々のご健勝とご活躍を祈念いたしますとともに，今後とも後に続く後輩の校長，そして中学校長会へのご支援を賜りますよう改めてお願いを申し上げる次第でございます。

この度，本会では，中学校長としてご昇任された25名の新会員をお迎えしています。社会が大きく，そして速度を増しつつ変化する状況にあって，中学校教育の経営を担う校長職にあっては，様々な決断と対応を迫られます。苦しい場面も当然ながらありますが，夢を語り，子供たちの成長する姿に大いにやりがいを感じながら仕事にあたることができるのもまた教育という営みであります。「校長職は孤独である」という言葉を聞くことがあります。決断する厳しさを示唆するものであり，ある意味においてはそうなのだろうと思いますが，我々校長には，この中学校長会の仲間があり，各地域には助け合い，支えあう校長会のネットワークがあります。

宮城県中学校長会は，県内各地の中学校長会との連携を図り，中学校教育が抱える各種の課題や当面する対応事項に対して協議し，関係する機関への提言や情報の提供等も行いながら，本県教育の振興に寄与することを目的としています。宮城県の中学校長として共に手を携えながら進んでまいりましょう。

全日本中学校長会は，全日中教育ビジョンの趣旨を踏まえて，新たな教育課題に対して果敢に挑戦し，校長相互の資質の向上と目的を明確にした取組を推進することによって，学校経営の更なる充実と学校からの教育改革を進めようとしています。教育界においては，法改正を伴う一連の教育改革が行われ，昨年３月に告示された新学習指導要領では，「社会に開かれた教育課程」及び「主体的･対話的で深い学び」の実現,「カリキュラム･マネジメント」の確立が求められる等，学校教育は新たな変革の時期を迎えています。

本年10月に開催される，第69回全日本中学校長会研究協議会鳥取（米子）大会においては，第１分科会である「社会に開かれた教育課程」の編成と実施の研究題について，東北地区を代表して宮城県石巻地区が発表をすることになっております。「学校は地域に浮かぶ船である」という言葉がありますが，地域とともに在る学校，地域とともに創る教育を目指して地域の人材，地域にある教育資源等を活用し，地域と協働しながら教育活動を展開していくことが必要であります。コミュニティスクールの取組やその推進も図られつつあ

りますが，地域社会と学校が双方向の関係性をもちながら，所謂ウィン・ウィンの持続可能な取組を構築する等，新たな時代に求められる学校づくりに向けてリーダーシップを発揮することが今まで以上に求められていると感じています。

学力向上への継続的な取組に加えて，「学校における働き方改革」，「部活動における指導ガイドライン」に係る指導の在り方とその改善，震災から７年が経過し記憶の風化が危惧される中での「防災教育の推進」，喫緊の課題である「いじめ問題」や不登校対策等，学校を取り巻く教育課題は山積しており，そしてそれは広く組織横断的な取組が求められる課題である場合も多い訳でありますが，今年一年，地区会長会，理事会等の場を通して意見を集約し，中学校長会としての基本的な方針を定め，教育課題の解決と宮城の教育充実の為に共に取り組んでまいりたいと考えます。また，県教育委員会の組織改編に伴って，今年度から２つの地域事務所が統合され，５教育事務所に再編されたことは承知のとおりです。昨年度においても年度末までの期間で検討をした経緯がありますが，この度の組織改編に対応すべく，今年一年の時間的猶予を得て，中学校長会として新たな教育事務所体制に対応する検討を進めます。該当の校長会，併せて小学校長会等との連携も図りながら，県校長会地区会長会及び理事会などの場で，調整の協議を進めたいと考えます。改めて，ご参会の校長先生方のご理解とご協力をいただきますようお願いします。

ずいぶん前の話になりますが，尊敬する先輩から「随所に主となれば，立つところ皆 真なり」という言葉を教えていただいたことがあります。どこにいても主体的でありなさい，そうすることでその場所が自分を生かす場になるという意味の臨済宗の教えのようです。

課題が山積する教育界ではありますが，宮城県中学校長会としてのまとまりを大事に担保しながら，会員各々がそれぞれの立つ場においてリーダーシップを発揮し，「自校からの教育改革」として主体的に取り組むことで諸課題の改善と解決の歩みを進めていければと思います。

結びになりますが，宮城県教育委員会並びに市町村教育委員会のご指導をいただきながら，本会の会員が相互に研鑽を深めつつ，宮城の教育の一層の充実と発展に貢献することを改めて誓いまして，開会の挨拶といたします。

祝　　辞

宮城県教育委員会
教育次長
松　本　文　弘 様

教育次長の松本でございます。

高橋教育長は所用により，出席が叶いませんでした。祝辞を授かって参りましたので，ご紹介させていただきたいと思います。

本日，県内の中学校の校長先生方が一堂に会し，平成30年度宮城県中学校長会総会が盛大に開催されますことを，心よりお喜び申し上げます。中学校長会の皆様におかれましては，本県の教育振興にご尽力をいただいておりますことに感謝申し上げます。

東日本大震災から７年が経過し，復興の歩みは着実に前進しておりますが，いじめ・不登校や心のケアなど，課題は山積しております。中学校長会の皆様には，これまでにも増して本県教育の推進役を担っていただくことを期待しております。本日は，この場をお借りして４点お話をさせていただきます。

１点目は，安全・安心な学校づくりについてでございます。先日，大川小学校裁判で県と石巻市が上告したことは御承知と思いますが，７年前に大川小学校で起きた悲劇を二度と繰り返さないために，この悲劇から得た教訓を風化させることなく，各学校における防災・学校安全への不断の見直しをお願いいたします。そのためにも，各学校のリーダーである校長先生が，日頃から防災・学校安全への高い意識を持ち，教員や子どもたちの意識を高めさせ，防災教育の充実と防災管理体制の一層の充実に取り組んでいただきますよう，お願いいたします。

２点目は，「新しい学習指導要領への対応」でございます。道徳教育については，これまでの，「要の時間として学校教育全体で行う」という考え方を引き継ぎつつ，「特別の教科･道徳」として，文章表現による評価を伴うものとなります。また小学校において，外国語活動や外国語科の授業が導入されることに伴い，県として英語教育の充実を図るため，今年３月に，小学校から高等学校までの系統的な英語教育の推進計画を策定したところであります。道徳や英語に限らず，主体的・対話的で深い学びの実現を目指し，これまでの学習指導の在り方について幅広く見直していただきたいと思います。

３点目は，部活動の在り方についてでございます。正に今，中総体の地区予選に向けて，日々熱心に活動している時期だと思います。部活動が持つ教育的意義は大変大きいものがありますが，その一方で，行き過ぎた指導や過熱化が課題として指摘されております。昨年度末に，県としての部活動ガイドラインを策定いたしました。今後，各市町村教育委員会が策定する部活動の方針を踏まえて，各学校において部活動に係る活動方針を策定し，公表していただくこととなりますが，まずは地域や保護者の理解を得ながら，適正な活動時間の設定と適切な指導の確保をしていただきたいと思っております。

４点目は，「服務規律の確保」でございます。過日，教職員の処分が公表されました。多くの先生方が誠実に職務を遂行していることは承知しておりますが，学校の信頼，教職員の信用を失うような行為はただの一人もあってはなりません。校

長先生方の責任において，各校の服務規律の確保をお願いいたします。生徒の学力の向上と心身の成長は，信頼される学校と教職員がいてこそ保証されるものであり，その実現は校長先生の力によるところが大きいと考えております。本県の教育の充実に向け，ぜひ，校長先生お一人お一人が存分に力を発揮していただきたいと願っております。

年度初めに，本庁職員には，チームで課題を解決していく「知恵」と，変化を恐れず一歩前に踏み出す「勇気」，そしてコミュニケーションに必要である「笑顔」を大切にして取り組んでいくことをお話しいたしました。校長先生方とも，ぜひ，「知恵」と「勇気」と「笑顔」を大切にして，宮城の教育を前進させていきたいと考えております。

結びに，毎日の激務が続いております校長先生方が，御自身の心身の健康に十分御留意され，本県の教育の充実・発展のために，今後とも御尽力いただきますことをお願い申し上げるとともに，本会の益々の御発展を祈念いたしまして，お祝いの言葉といたします。

宣　　言

今日，わが国の教育は人格の完成を目指し，伝統と文化を尊重するとともに，豊かな人間関係で満たされる社会を創るたくましい日本人を育成する使命を担っている。

我々は，人間尊重の精神に徹し，自らの責任において全日中教育ビジョンに基づく学校からの教育改革を推進し，新たな中学校教育の創造に努めなければならない。

宮城県中学校長会は，東日本大震災による被災からの再生を第一義に，これまでの成果の上にたって，当面する教育課題の解決を図り，「社会を生き抜く力」の育成と特色ある学校づくりに努め，県民の信託に応える決意である。

ここに，平成30年度第69回総会に当たり，下記事項を決議し，その実現に期する。

決　　議

一　人間尊重の精神に徹し，「社会を生き抜く力」を育む教育に努める。

一　学習指導要領に基づく特色ある教育課程を編成・実施し，確かな学力の定着，豊かな心と健やかな身体の育成に努める。

一　現在の教育課題に即した研修を充実し，教職員の資質・能力の向上と使命感の高揚に努める。

一　創意ある教育活動を展開し，家庭・地域社会から信頼される，開かれた学校づくりに努める。

一　教育活動の活性化を目指し，人的措置をはじめ確固とした教育条件の整備を期する。

一　「義務教育費国庫負担制度」及び「人材確保法」を堅持し，教育水準の維持向上を期する。

新　任　抱　負

「チーム小原」で，小さな「一歩」を！

白石市立小原小・中学校長
成　瀬　　啓

小原温泉，材木岩公園，スパッシュランドパーク，検断屋敷，満蔵稲荷神社，小原の百矢納め等，自然と歴史の地「小原」に赴任して早数ヶ月が過ぎました。６月開催の「小原地区民体育祭」では，多くの地区民の皆さんと共に，小中学生も走り，競技しました。その中で，多くの方々のお話を伺うに従って，小原小中学校への強い思いを感じました。ある民生委員さんは「どんなに小さくても，私たちはこの子どもたちを見守りたいです。そのためにできることは何でもしますよ。」とおっしゃっていただきました。このような方々に支えられて学校は存在している，まさに本校は「地域に浮かぶ船」なのだと実感しました。

本校は白石市から「小規模特認校」の指定を受けており，いじめや不登校などにより学校に行けなくなった子どもたちが複数名在籍しています。その内８割は，周りの子どもたちの支えにより何とか毎日学校に登校しています。本校の環境だからこそ学校が，教室が，「居場所」となり，安心して通って来ているのだと思います。

４月の職員会議，始業式，入学式，ＰＴＡ総会で，今年の職員，児童生徒の合い言葉を「一歩」にすると話しました。私の好きな，「一日を生きることは，一歩進むことでありたい」という，湯川秀樹博士の言葉を引用しました。私たちの「一歩」は小さいものです。でも，一歩一歩歩み続けることで，少しずつ成長し，やがて大きな一歩になり，やがて自分の夢や志をかなえていけるものだと思っています。夢や志をもち，それに向かってコツコツと努力してほしいとの願いを込めて話しました。今では，子供たちが放課後校長室に来て，今日の一歩を話してくれています。子供たちと共に，私も歩み続けたいと思っています。

今後も，白石市教育委員会及び県内の校長先生方の御指導やご助言をいただきながら，全児童生徒，教職員が「一歩」「一歩」歩み続ける「チーム小原」を作っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

地域・ＰＴＡ・教職員・生徒と共に

柴田町立船迫中学校長
曽　根　秀　輝

「校長先生って，普通に話しかけられない人だと思いました。」郡陸上大会直前の会場練習で，１年男子生徒からかけられた言葉でした。やはり，校長とは学校の最高責任者で，威厳のある存在なのだと感じた瞬間でした。そして，今，着任からおよそ２ヶ月が過ぎ，自分が校長として「校長らしく」務めを果たしてきただろうかと考えてみると，まだ，目指す学校経営を積極的に推進しておらず，務めを果たせていない現状です。先日，県の新任校長研修会で，ある講師の先生から「すぐ動くことが大事！」と御助言をいただきました。「流れに任せているのではなく，積極的に学校経営をしてください。時間がないのですから。」とのことでした。目が覚めたような気がしました。

４月８日から，地域の交通安全協会ボランティアの皆様と一緒に毎朝の児童生徒の登校指導を継続して行っていますが，交通安全のことや，不審者情報などの情報交換をしています。長年見守っていただいている皆様との交流は，お互いに大変有意義であると感じています。また，本校は町教委による地域ボランティアの「しばたっ子応援団」，仙台大学生ボランティアによる部活動支援など，多くの地域の皆様に支えていただき，恵まれた環境で教育活動ができています。そして，本校には，学校の教育活動に協力的なＰＴＡ，常に生徒に寄り添って指導している教職員，素直で挨拶の盛んな生徒達がいます。本校のＰＴＡ・教職員・生徒は，いろいろな面で，さらに上のレベルを目指して成長できると確信しております。そして，新任校長である私自身が，最も成長しなければならないと強く実感しております。

地域の皆様の多くの御協力をいただきながら，私自身が積極的に学校経営を推進することで，本校のＰＴＡ・教職員・生徒と共に，校長の私も成長していき，よりよい船迫中学校をつくっていきたいと思います。

新　任　抱　負

地域とともに歩む学校を目指して

村田町立村田第二中学校長
菅　原　ひろみ

「みちのく宮城の小京都」と称される村田町。江戸時代には，仙台と山形を結ぶ街道の分岐点として，紅花や藍の商取引が盛んに行われていた地域であり，豪勢な蔵が立ち並ぶ風情あふれる町並みが今でも残っています。

62人の子どもたちの笑顔や頑張る姿，子どもたちのことを第一に考え真剣に指導する教職員の姿に接しながら，そして「おらほの学校」と地域の方々が学校に寄せる温かい思いや期待を感じながら，日々を過ごしています。本当に幸せなことだと感謝するとともに，校長としての重責をひしひしと感じているところです。校長室に飾られている24名の歴代校長先生方に見守られながら，自分は子どもたちや先生方のために何ができるか・・・。これからも問い続けたいと思います。

本校では，地域の特性や小規模校のよさを生かした体験活動を推進しています。紅花栽培や稲作，地元で継承されている和太鼓や和楽器演奏など，教員の力だけでは難しいことも，地域の教育力を活用することで，教育効果をあげています。学校への助力を惜しまない献身的な地域の方々との触れ合いや，地域の産業・歴史・伝統を学ぶことは，子どもたちにとって「ふるさと沼辺」のよさを再認識する場でもあります。

子どもたちの人間関係には，親や教師との「タテの関係」と，同世代の友人との「ヨコの関係」があります。さらに，地域の方々など第三者的な関係である「ナナメの関係」の人々の存在が大切であると言われています。学校・家庭・地域が連携を図り，意図的に体験活動や触れ合う機会を多く設けることで「ナナメの関係」を構築していきたいと考えています。

いつも温かく学校を支えてくださっている保護者や地域の皆様の期待に応えるためにも，ふるさと沼辺に誇りをもち，学校に誇りをもち，そして自分に誇りをもてる生徒の育成に，「チーム二中」として全教職員で励んでいきたいと思います。

「地域に浮かぶ希望の船」を目指して

名取市立閖上小中学校長
八　森　　伸

本校は，東日本大震災で被災し，７年が経過した今年４月に，義務教育学校として開校いたしました。

震災では，閖上小学校，閖上中学校をはじめ，閖上地区は壊滅的な被害を受けました。閖上中学校は卒業式当日で，震災発生時，生徒はすべて下校しており，14名の尊い命を失いました。あってはならないことであり，当時，閖上中学校に勤務していた私は，14名の生徒の命を救ってあげられなかったことを，今も悔いています。「なぜ，子どもたちを救えなかったのか。」「大きな地震が来たら，学校に避難しておいでの一言を言っていなかったのか。」と。

そんな経験をした私が，閖上小中学校の校長を拝命し，最も大切にしたいことは，児童生徒の命を守るための防災教育です。「自分の命は自分で守る」「風化させない」「地域を知る」を３本柱とした防災教育を教職員の共通理解のもと，しっかり行っていきたいと考えています。

また，本校は県内初の義務教育学校としてスタートいたしました。すべてが初めてのことで，戸惑うことも多々あります。震災後，この学校の構想から教育計画作成まで，時間をかけて行ってきましたが，実際に運営してみると改善しなくてはならないことが多々あり，１つ１つの教育活動を行うにあたり，時間をかけて議論しています。そのような中でも，本校に赴任してきた先生方のすべてが，前向きであり，若手の先生方は「この学校に着任でき，光栄です。」との言葉を漏らすほどです。そんな先生方と一丸となって，新しい学校を作り上げていきたいと考えています。

閖上地区の復興は７年たった現在も道半ばです。しかし，地域の方々は「子どもたちは閖上の宝」と言い，学校に労を惜しまず協力してくれています。そんな閖上の「地域に浮かぶ希望の船」となるよう，学校づくりに誠心誠意努力してまいる所存であります。

新　任　抱　負

「把手共行」

岩沼市立玉浦中学校長
尾　形　浩　明

４月２日自治会館での辞令交付式の後，岩沼市役所への挨拶を済ませてから学校に向かいました。到着した私を出迎えてくれたのは，音楽部の演奏と当日に部活動をしていた生徒たちと先生方でした。初めて会う私に生徒たちの眼差しは興味津々で，そんな生徒を見守る先生方の眼差しは優しさに溢れていました。その様子から玉浦中学校の雰囲気の良さが感じられると同時に，校長になった職責の重さが内からふつふつと湧き出て，身体が震えました。同時に，生徒一人一人が輝く学校づくりに「誠心誠意」努めようと改めて心に誓いました。

玉浦地区は，岩沼市で唯一震災津波の被害を受けた地域です。しかし，震災直後から地域のコミュニティーを大切にしながら復興に向けて取り組み，県内外から「復興のトップランナー」として注目を浴びてきました。特に玉浦西地区は震災直後から住民同士のつながりが断たれないように，避難段階から集落ごとにまとまって，コミュニティー維持に努めました。集団移転の際も，住民同士の話し合いを何度も重ね，納得できる町づくりを行いました。その結果，集団移転後も以前と変わらない良好なコミュニティーを築いています。

昨年，中学校の隣に地域コミュニティーの活動拠点となる玉浦コミュニティーセンターが完成しました。地区の運動会をはじめ，子ども会行事や防災キャンプなど様々な催しを行っています。そのコミュニティーセンターと連携を図り，地域と協働しながら生徒一人一人のニーズや夢と希望を持って学習できる環境づくりに務めたいと思っています。

本校の校歌の結びは「日本国の再建の　責任肩に負える子等　希望豊かにいっせいに　つとむ玉浦中学校」とあります。校長として，先生方の英知を集結させ，地域の方々と関係諸機関の方々と共に手を取り合いながら玉浦地区だけでなく，校歌の如く国を支える志の高い若者の育成のため微力ながら力を尽くしていきたいと思います。

感謝の日々

亘理町立逢隈中学校長
小野寺　昭　人

「目の覚めるようなオレンジジャージに負けないくらい明るい生徒たちと，笑い声が溢れる職員室が逢隈中の自慢です。どうぞよろしくお願いいたします。」こんなメッセージに迎えられ，私の校長としての生活がスタートしました。

例年より早い開花であった満開の桜に祝福されながら行われた始業式・入学式から始まった１学期もやっと２か月を過ぎたところですが，多くの学校行事，関係する諸会議、そして校長である自分の決裁を待つ膨大な量の文書，さらには，「判断と決定」を迫る様々な出来事に翻弄された毎日だったように思われます。教頭時代であれば，いつでも助言していただける校長先生が後ろにいらっしゃいましたが，自分がその立場となった現在は，その重責に予想以上のプレッシャーや悩みを感じるときが少なくありません。

分からないことがあった時や判断に迷うような時，救っていただいたのは，校長机の電話の向こうで懇切丁寧にアドバイスしていただける先輩の校長先生方のおかげであり，町･管内等の校長会･中体連・教研等の会議の際にさりげなくいろいろな話をしていただく雑談の中にも，多くの学びがあり，その励ましには，何度も勇気づけられています。まだまだ未熟者ではありますが，そのような先輩方に少しでも近づくことができるよう，研鑽に励みたいと思っております。

我が校には，逢中「あいうえお」なる合い言葉があります。それは，

あ・・・あいさつ日本一の学校
い・・・いのちを大切にする学校
う・・・うた声の響く学校
え・・・えがおがあふれる学校
お・・・おもいやりに満ちた学校

この合い言葉に象徴されるような温かく，活気にあふれ，えがおに満ちた学校に向かって前進させることができるよう，微力ながら，全力で取り組んでまいります。

新　任　抱　負

ありきたりですが

富谷市立成田中学校長
山　内　芳　明

本校は富谷市の南に位置し，成田団地の造成による人口増によって，平成17年に東向陽台中から分離・開校した学校で，今年度の生徒数は529名です。

４月２日，学校に到着した私を迎えてくれたのは，部活動で登校していた生徒たちと先生方の笑顔と拍手でした。温かい歓迎に感謝しながら，改めて職責の重さに身の引き締まる思いがしました。

生徒の生活の様子は全体的にとても安定しています。その安定は，学校の取組だけでなく，子供たちが育つ基盤となる家庭と地域の安定なくしては成し得ないものであり，成田地区の家庭環境・地域環境の力を実感させられています。

始業式では，生徒たちに「新しい自分づくり」にチャレンジしようと話しました。「青春時代には成功と失敗があるのではない。あるのは，成功と“学び”だけだ。チャレンジしてうまくいかなかったとしても，それは失敗ではなく学びなのだ。これまでの自分は変えることができないけれども，これからの自分はいくらでも変えることができる。失敗を恐れず，なりたい自分を目指してどんどんチャレンジしよう。」と投げかけました。

さて，現在本校の生徒会では挨拶が課題だと考え，挨拶運動に力を入れて，毎朝至る所で挨拶運動が行われています。私も「挨拶は目を見て笑顔でさわやかに」をスローガンにして，生徒のモデルとなる挨拶をしようと教職員に働きかけています。挨拶運動なんて，ありきたりで月並みな活動ですが，でも気負わずに，そこからスタートしていきたいと思っています。

これから先，様々な難題に直面することがあるでしょうが，「マイナスはいつでもプラスに変え得る」という言葉を胸に，「夢を抱き，夢を成し遂げようとする生徒を育てる」という学校教育目標の具現化を目指して，教職員とともに，力を尽くしていきたいと思います。

新任抱負

大崎市立田尻中学校長
狩　野　秀　之

着任してはや３ヶ月。
私にとって，初めて経験する義務教育の世界。驚きと発見と疑問の連続というのが本音です。

教員になって以来，「出会った人々と活き活き生きるための方策を共に模索し，実現にむけて努力する」という抱負は，学年主任になっても，教務部長になっても，教頭になっても，所長になっても，校長になっても変わっていません。

進歩がないという人もいますが，立場が変わり仕事に対する目配りと責任の範疇が広がりどんどん重くなっていく中で，何かに流されずに同じ抱負をもち，実践していくには，当然，新たな視点と方策をもがきながら見いだしていく上で，話し合い，連携していく内容も深くなり，関係組織もどんどん増え，取組への覚悟も強く深くなっています。

赴任した田尻は，独特の文化風土をもった地域のように感じます。よそ者である私の目でこの地の先達の知恵の痕跡を探り，自然史を調べ，地域の方々の暮らしの有り様から貪欲にこの地を知るための学びを重ね，この地域の価値を再評価していく中で，この地に住む子どもたちが「あたり前」としている事の中に，実は「ここならではの黄金の価値を持つものがあること」を見出し，この成果を子どもたちの心に印象付けて世に送り出したいと考えています。

本音では，ライフワークとして学校教育と社会教育の力を投入し，様々な経験と勉強を重ね，地方に住み，その地を活かした新しいライフスタイルを創造する輩が育つ土台を構築したいのです。

若者がいるだけで，地域は活気を持ちます。

自分の可能性を信じ都会で活躍する人生を否定するつもりは毛頭もありませんが，自然と関わり，地方で，活き活き生きる新しいライフスタイルを創造する道の選択も大切にしたいと思います。
「大風呂敷を広げやがって」と笑ってください。

新　任　抱　負

誇りを胸に

涌谷町立涌谷中学校長
新　井　雅　行

３月，「涌谷町立涌谷中学校です」と内示を受けたあの日，身が引き締まるとともに不安で一杯になったことを覚えています。涌谷中学校は，旧涌谷中と旧箟岳中が統合し，歴史と伝統のある涌谷町で唯一の中学校として新たに開校した学校です。その学校の校長が私で務まるのか，不安は頂点に達していました。しかし４月２日，その不安を生徒たちの魂のこもった校歌と温かい歓迎の言葉が払拭してくれました。それと同時に「誠心誠意やるしかない」と決意させてくれました。

４月，子供たちにも職員にも「涌谷中学校の生徒，職員である」ということに誇りをもってほしいと伝えました。どこにいても，何をやっていても，誰といても「涌谷中学校の生徒です」，「涌谷中学校の職員です」と胸を張れるようになってほしいと思います。その誇りは故郷を愛し，地域のために力を尽くすことにつながるはずです。自分の言動を律し，正義を貫くことにつながるはずです。開校４年目ですが「涌谷中学校」の新たな伝統にはそれだけの力があると感じています。

５月，修学旅行では，上野公園で町の特産品や自作のパンフレットを配り，町の魅力を伝えるＰＲ活動の後，「地域文化学習」で学習してきた町の伝統芸能である民謡「秋の山唄」，舞踊「箟岳白山豊年踊り」，「お茶屋節踊り」を披露してきました。あいにくの雨にもかかわらず，町の伝統文化を精一杯披露する子どもたちの姿に，心から感動しました。修学旅行を通して「涌谷中学校の生徒です」，「涌谷町が故郷です」の誇りと自信を一層強く胸に刻むことができたと感じました。

これからは，変化の激しい社会と言われます。子供たちはその社会の中で，自ら人生を切り拓き，たくましく生きていかねばなりません。「涌谷中学校の卒業生である」という事実が，生きていく心の拠り所の一つとなるよう，生徒・教職員・保護者が一体となって夢と感動のある学校をつくっていきたいと思います。

笑顔・身だしなみ・少し上

美里町立不動堂中学校長
玉野井　ゆかり

「いつも笑顔でいる」
「いつも身だしなみを整えておく」
「いつも相手の期待より少し上を目指す」

これは，元全日空の CA で現在人材育成・開発を行っている里岡美津奈さんの言葉です。「笑顔はあなたを受け入れること。身だしなみは品格があること。少し上を目指すは期待に応え，相手を育てること。」と自分なりにとらえ，この言葉を胸に校長として進もうと決意しました。

４月２日，吹奏楽部の演奏の中，教頭先生に導かれて，昇降口前へ。生徒会による着任セレモニーが行われ，歓迎のメッセージと大きな声で歌う生徒達の校歌に感動。一緒に赴任した先生方と「私たちはなんて幸せなんでしょう！」と喜び合いました。同時に，この生徒達のために何をすべきなのか。先生方と何ができるのか。先生方の力を結集して，この生徒達のために力を尽くそうと意を新たにしました。

そう決意しながらも，２年ぶりの学校現場に戸惑い，３つの言葉が遠のくことも多い日々の中，中学校３年時の担任の先生から葉書をいただきました。「あなたに続く先生方を育ててください。特に研究主任さんをバックアップして，先生方全員が同じ目標に向かい，生徒と向き合うことに喜びを感じながら仕事をされたら良い雰囲気をつくり出されると思います」との言葉。見守ってくれる人がいるというのはなんと心強いのだろうと，一歩踏み出すことができました。

それから２カ月，同僚，保護者・地域の方々，そして何よりも生徒たちの笑顔にパワーをもらい，何とかやってきたような気がします。膨大な文書に圧倒され，眉間にしわを寄せて PC に向かうことも多いのですが，前述の３つの言葉を思い出しては「笑顔・身だしなみ・少し上」と言い聞かせて，前に進んでいきたいと思います。

新　任　抱　負

「出会いは宝」

登米市立津山中学校長
佐　藤　秀　二

このことばは教頭時代，尊敬する先生から教わったことばです。転勤時も，今回校長として津山中学校に赴任したときにも，このことばをいただきました。赴任日，桜の蕾と共に，在校生徒全員に出迎えられ，明るくさわやかな挨拶と校歌を披露してもらい，自身にとって大きな原動力となりました。「出会いは宝」を実感した瞬間でした。

津山中学校は柳津中と横山中が昭和50年に統合しました。平成16年までは本吉郡でした。小高い山の中腹にあり，「登校坂」と呼ばれる学校までの長い桜並木の坂道を，生徒は歩いて上ってきます。途中ですれ違う人や車には，立ち止まって笑顔で挨拶をします。授業の様子をそっとみているとき，生徒と目が合うと，笑顔で黙礼をします。清掃時間，労いの言葉をかけると「ありがとうございます」と返ってきます。挨拶と礼儀作法は津山中の隠れた教育課程です。

現在，全校生徒は90名，以前の在籍数と比して少なくはなりましたが，機動力を生かして誇れる母校を目指してまいります。本校はコミュニティスクールの指定を受ける以前から地域の協力のもと学習活動を行っています。地元の矢羽根杉による工芸品づくり，伝承芸能の打囃子，火伏せの獅子舞，全校書写，キャリア教育としての職場体験とキャリアセミナー等，たくさんのボランティアとＰＴＡの方々に支えられています。健全で逞しく社会を生き抜く生徒の育成が唯一の恩返しと考え，切磋琢磨し合い，色々な事をやってみようを合言葉に，生徒がよりよく学び，校是「知性・友愛・健康」にせまれるよう，ときおり津山中に遊びに来るニホンカモシカに挨拶をしながら，今日も業務員さんと汗を流す日々を送っています。

20年前，この地に幼い子を連れて遊びにきたとき，地域の方にお世話になったことがありました。いつか何かの形で御礼したいと思っていました。このような形で実現するとは夢にも思っていませんでした。正に「出会いは宝」です。

「新任校長として」

気仙沼市立松岩中学校長
千　葉　幹　雄

松岩中学校に赴任する数日前，校長先生に呼ばれ，「校長としての心構え」をいくつかご教示頂きました。

一番始めに「校長にはなぜ一室が与えられるのか」と問われ，いくつか自分で思いついたことをお答えしました。校長先生からは，よく考え校長としての職責にあたるようご示唆頂きました。

なぜ一室を与えられるのか思いを巡らせる中，校長としての在り方について考えるようになりました。

現在，校長室には歴代25人の校長先生方の写真があり，いつも私を見守ってくださっています。今の松岩中は，歴代の校長先生，地域・保護者の皆様，教職員によって築かれてきました。そして今私は，地域・保護者の皆様，教職員に支えられ，校長としての職責を果たしていいます。

赴任以来２か月，学校教育目標の具現化に向け，生徒の育成を図ることはもちろん教頭以下全教職員を育てること (資質向上) を心掛けてきました。また，校長の発する一言の重みを自覚し，言葉を大切にし，心を込めて伝えるよう努めてきました。しかし，松岩中学校の校長室は，事務処理，会議や出張の合間に一人自分を振り返る場「反省の部屋」になることがしばしばあります。

なぜ校長に一室が与えられるのか，自分の中ではっきりとした答えを見つけ出せないでいます。今すべきことは，生徒のため，学校のため何ができるのか，何をしなければいけないのかを考え，開校以来の学校テーマ

『限りなき前進』
～奮え力・磨け心～

のもと地域・保護者の皆様，教職員と協力し，校長としての職責を果たしていくことだと思います。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 新　任　抱　負 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

夢のある楽しい学校の創造

石巻市立渡波中学校長
中　里　和　裕

４月２日，仙台での辞令交付式を終え，石巻市教育委員会に服務宣誓書の提出を済ませて渡波中学校に到着すると，生徒会長が駐車場の入口で待ってくれていました。そして，会長の先導で昇降口前の広場（「渡中プラザ」と名付けられています）に案内されると，そこにはたくさんの生徒たちがいて，吹奏楽部の伴奏で元気よく校歌を歌って私を出迎えてくれました。こうして，感激の内に渡波中学校での勤務がスタートしました。

校長として初めて勤めることになった渡波中学校は，７年前の東日本大震災で，沿岸にあった校地を含む学区の大部分が津波により被災しました。それから昨年３月までの６年間，内陸部の稲井小学校の校庭に建てられた仮設校舎での生活を余儀なくされていましたが，昨年４月に，ようやく移転新築された校舎が完成し，現地での学校生活が再開されました。

生徒たちは，真新しい校舎で毎日明るく元気に学校生活を送っていますが，大半の生徒は直接・間接的に震災の影響を受けています。５歳児～小学校１年生という幼少期の被災であっただけに，心も体も不安定になる思春期を迎え，その影響が懸念されるところです。ただ，一方で生徒たちは，現地に戻り，「地域のために役立ちたい。」という思いも強くしています。

渡波中学校の教育目標は「夢のある楽しい学校の創造」です。生徒一人一人が，震災を乗り越え，ふるさと石巻の復興を支え，より良い未来を創造する担い手となる志を「夢」としてもてるように，そして，その夢をかなえる力を身に付けることができるように,「生徒最優先の姿勢」を大切に，教職員の総力を結集し，地域や保護者の方々と連携して「夢のある楽しい学校」づくりに取り組んで行きたいと思います。

編集後記

○　総会において，志小田美弘会長は，今年度は「学習指導要領改訂に伴う移行期間中の円滑な接続と全面実施に向けた準備」「保護者・地域と考えを共有し，子供たちの成長を協働しながら支えていく仕組みづくり」「教育事務所改編に伴う，校長会等の組織の見直し」の３点について重点的に取り組んでいきたいと話されました。また，髙橋 仁教育長は祝辞の中で,「安心・安全な学校づくりの推進」「新学習指導要領への対応」「部活動指導のｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝに即した部活運営」「教職員の服務規律の確保」の４点について話されました。

我々校長は，志小田会長や髙橋教育長の話されたことを自分事として捉え，着実に推進し，本県教育の一層の充実・発展に努めていくことを共に確認しました。

○　13名の校長先生から新任校長としての抱負や感想，随想などについて原稿を寄せていただきました。皆さん，校長としての責任の重さに戸惑いながらも，それぞれが理想とする生徒像や教師像，学校像の実現に向けての熱い思いが伝わってくるものでした。

○　次号は,「第68回全日本中学校長会研究協議会鳥取（米子）大会」と「第36回宮城県中学校長会研究協議会 栗原・登米大会」の報告を中心にお届けします。

原稿の執筆等，ご協力のほどよろしくお願いします。

平成30年度　宮城県中学校長会事務局

〒985-0851
多賀城市南宮字八幡170
多賀城市立多賀城第二中学校内
TEL：022-309-1351
FAX：022-309-1352
E-mail：miyagi-kochokai@wine.plala.or.jp

事務局員：佐々木　美代子
佐々木　奈美子